

やよい図書館TOPICS

館長が紹介する「印象に残った一文」とは？

フレーズ
&
センテンス

「これは、いじわるな詩です。」

コピーライター、エッセイスト、タレントと幅広く活躍する著者の詩集です。それぞれの詩に自らコメントを寄せて、執筆時を振り返る形式がとられています。今回のフレーズは「空よ」という詩にたった一言添えられたコメントです。私はこの詩を読んで、不意にぽかんと殴られたような気持ちになりました。その詩を、著者はいじわるだと言うのだから、余計印象に残りました。どんな詩が気になった方はぜひお手に取ってみてください。

(青山)

『詩なんか知らないけど』糸井重里／詩 大日本図書

「誰か×誰か」「誰か×何か」の組み合わせが面白い！

四字熟語×四コマストーリー

『四字熟語ワンダーランド』新井洋行／作・絵 フレーベル館

前回は美しい短歌の本をとりあげましたが、今回紹介するのは、ちょっと変わった四字熟語の本です。「朝日小学生新聞」の連載が1冊にまとめられたもので、特に大切な100個の四字熟語について、読み方、意味、使い方がわかるように、愛らしいイラストと物語で表現しています。言葉は知っているけれど意味は曖昧・・・と思っていた四字熟語も、絵本を眺めるように楽しみながら、いつの間にか覚えているかもしれません。この本を読んだ後に、気になったことばの語源を調べてみるのもおすすめです。

(本田)

原作本から入って良し、映画から入っても良し。

Cinema
library

第23回 西遊記～はじまりのはじまり～

★原作「西遊記」著者：呉承恩 岩波書店

★映画「西遊記～はじまりのはじまり～」監督：チャウ・シンチー

『西遊記』といえば、誰もが知っている名作中の名作。孫悟空や三蔵法師の活躍を一度も耳にしたことがない人は、めったにいないと思います。しかし、あなたが知っている『西遊記』は、原作のほんの一部かもしれません。なにせ、岩波書店で邦訳されている原作は、文庫にしてなんと10巻！ しかも、中国で小説『西遊記』が書かれたのは今から500年よりも前のことなのです。こんなに古くて長い物語ですが、今でもたくさんの人々に愛されているのは本当にすごいと思います。さて、そんなすごい物語から、さらに物語を作ってしまったのが、映画『西遊記～はじまりのはじまり～』です。この映画では三蔵法師はまだ法師ではなく、妖怪ハンター玄奘（げんじょう）として妖怪退治をしています。玄奘が経典を求めて天竺へ旅立つ前日譚を描いたこの作品は、アクションあり、コメディーありで見ごたえ抜群！ 新しい『西遊記』を楽しみたい方はぜひ。

次回は『きっと、星のせいじゃない』です。お楽しみに！ (丸山)



Vol.10

親子で「おうちえほん」のススメ

NPO法人「絵本で子育て」センター絵本講師 のぐち りえ



絵本を通して「親」について考える

★子どもはワクワク、親はハラハラ★

今年は「甲年」。猿といって思い浮かべるのは、息子と何度も繰り返し読んだ『ひとまねこざる』と『おさるのジョージ』のシリーズ絵本。作者H・A・レイの死後に、アニメの『おさるのジョージ』でご存知の方も多いと思います。好奇心旺盛で何でもやりたくなってしまうジョージ。いつもその好奇心が思いがけない、いや、予定通りの？ 大失敗を引き起こします。絵本を楽しむ子どもたちは、次から次へと失敗しても驚くような方法で解決してしまうジョージが大好き！

しかし、親の場合だと、ジョージの姿を我が子に重ねて彼のいたずらや失敗にハラハラ、ついには《あーあ、ジョージったらまた他人様に迷惑をかけて～！》と被害の大きさに目が行き、とても幼い子どものようにワクワクドキドキ♪ だけではいられません。「きいいろいぼうしのおじさん！（←ジョージの親代わり）、大変なことになってるからー！！」って（笑）。



★1冊で、3回美味しい♪絵本の味★

それもそのはず、絵本は人生で3度出会うと言われていて、大人には大人の人生経験や社会経験、心の成熟度合にあつた感じ方や楽しみ方があります。**1度目は幼い時、2度目は親になった時、3度目は人生後半に差し掛かった時**ですので、パパママ世代は2度目、おじいちゃんおばあちゃん世代は3度目。**親や祖父母**

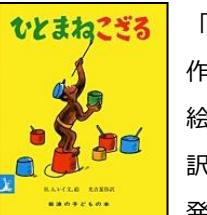
の立場で絵本に再会したときに、改めて気になるのが【絵本の中の大人（特に親！）】の存在です。

★きいいろいぼうしのおじさん、 実はすごい人かも！？

きいいろいぼうしのおじさん（以下、おじさん）のジョージに対する言動は一貫しています。決して怒鳴らない、叩かない、無理矢理謝らせない。おじさんはジョージに優しく諭し、結果ジョージは自分から謝ります。怒鳴ったり叩いたりして子どもに伝わるのは「大切なこと」よりも「怖さ」。ジョージの行動を見ていると、**幼い子どもの失敗は、殆どの場合において悪意はない**ことがわかります。頭では分かっているのに、子どもが失敗したという「事実」や「結果」ばかりに気を取られ、人からどう思われるかを気にする余り大きな声で怒る。或いは、子どもの話を最後まで聞かずによりあえず謝らせ、二度と同じ失敗を繰り返さないようにと親が子どもの行動の先回りをする（失敗から学ぶことが多いはずなのに！）。これ、意外とあるある！のパターンではないでしょうか。

自分の子育てを誰か（夫や母親など←ごめんなさい！）に批判されたら、カチン！ とくることも、絵本からこんな風に気付かせてもらえた、思わず素直に反省しちゃうでしょう♪ 「おうちえほん」は子育てをバリバリ頑張っている親にこそ、大切な時間だと思いませんか？

今月の絵本～ジョージの絵本～



「ひとまねこざる」
作：M. レイ
絵：H.A.レイ
訳：光吉夏弥
発行：岩波書店



「ひとまねこざる ひょういんへいく」
作：M. レイ
絵：H.A.レイ
訳：光吉夏弥
発行：岩波書店



「おさるのジョージ チョコレートこうじょうへいく」
作：M. レイ
絵：H.A.レイ
訳：光吉夏弥
発行：岩波書店